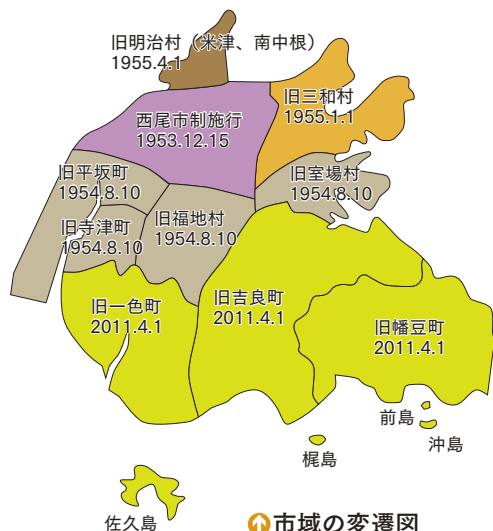


過去10年間の平均気温と降水量のグラフ
『西尾の統計2019』による



市域の変遷図

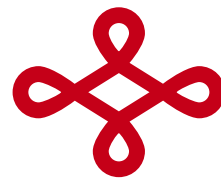
温暖な気候

西尾市は温帯で太平洋側の気候に属しています。年平均気温は約16.5°Cで、温和で過ごしやすい気候です。年間降水量は約1,359mmで、梅雨をはさんで5月から7月、台風が影響する9月から10月にかけて多くなっています。（2009年から2018年の10年間の平均）

西尾市の成り立ち

昭和の長い戦争から解放された1947年新しい憲法が施行され、地方自治が定められました。それ以前の小さい町村では行政の仕事が処理できなくなったため、大がかりな市町村合併が必要になりました。西尾町は1952年に福地村の一部（小焼野）を、1953年には平坂町の一部（田貫・中畑・国森・新在家）を合併して市制を施行し、県下14番目の市となりました。1954年に平坂町・寺津町・福地村・室場村を、さらに1955年には三和村と明治村の一部（米津・南中根）と合併しました。当時の西尾市の人口は約7万人県下6番目の都市でした。その後50年以上同一地域での市制が続きます。

1995年市町村合併特例法が改正され平成の大合併が進みました。西尾市は少し遅れて、2011年一色町・吉良町・幡豆町と合併し、人口約17万人の都市になりました。



市章 むす いげた

旧西尾藩主大給松平氏の道中目印として使用していたものと伝えられ、整然とした市街地と市民の団結を象徴しています。旧西尾町が1889年に町制施行以来使用しています。



市の花 ばら

ばらは、平和と幸福のシンボルとされています。1963年に市民から公募して選びました。



市の木 くすのき

緑豊かな美しいまちづくりを目指して、1971年に市民から公募して選びました。



ほんれい 凡例

茶	きゅうり
ばら	たまねぎ
カーネーション	いちご
洋ラン類 (鉢)	いちじく
観葉植物 (鉢)	ウナギ
にんじん	アサリ
乳用牛	のり
豚	

④産出額が愛知県内でのシェア5%以上の農産物の主な産地・主な水産物
 愛知県農業水産局農政課
 『農業の動き 2020』資料編及び
 同水産課『愛知県水産マップ』
 をもとに西尾市産業部農水振興課が作成

西尾の 多彩な農業・ 水産業

西尾は温暖な気候と矢作川がもたらす豊かな大地に恵まれた農作物の生産に適した地域です。名古屋や関東・関西の大都市に近く、国道・高速道路を使った輸送に有利なことも生かし、さかんに農業が行われています。

中でも抹茶の原料になるてん茶やカーネーションの生産は全国トップクラスです。大都市に近いことからハウスで野菜を育てる施設園芸しせつえんげいが盛んで、きゅうりやいちごなどを秋から初夏に生産します。ほかに、米・麦・大豆の水田作物、いちじくなどの果樹、ばら・洋ラン・観葉植物などの花き類、酪農・畜産までさまざまな農作物が生産されています。

漁業では全国に誇る一色産うなぎひがたの養殖、三河湾の干潟を利用したのり養殖、あさり採貝さいかいが盛んに行われています。市内の漁港では、三河湾、伊勢湾、渥美外海からさまざまな魚介類が水揚げされています。



西尾が誇る 抹茶とうなぎ

西尾の茶生産の特徴はてん茶に特化したところ。本格的な茶の栽培は明治以降で、宇治から茶の種と栽培技術がもたらされました。

矢作川によって運ばれた水はけのよい砂質土壌、上質な茶を育てる川霧かわぎりの発生、温暖な気候という恵まれた自然条件のもと、地場産業として発展します。1941年から市内の一部の小中学校で勤労体験学習として全校茶摘みが行われています。



①棚式覆下栽培の様子 (上町)
 茶葉と覆いの距離をあけることで、茶葉に傷がつかないようにしている。

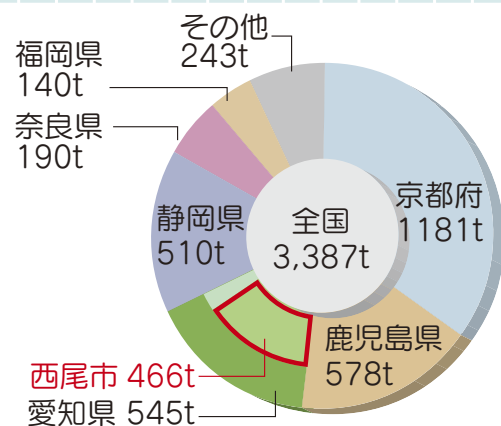
1 栽培にはいくつかの工夫があります。一つ目は棚
 式覆下栽培^{しきおおいしたさいばい}で、茶畑に棚^{たな}を作って黒い幕を張り、太
 陽光を遮断^{しゃだん}して栽培します。茶葉の渋み成分が抑制
 され、甘み成分を増やす効果があります。二つ目は
 5 手摘みによる収穫です。品質の良い茶葉が採れると
 ころが魅力ですが、低コスト化が図られる機械刈り
 とのバランスの取れた産地を目指しています。三つ
 目は抹茶にする加工技術です。てん茶乾燥炉で時間
 をかけて乾燥させ、茶臼^{ちやうす}を使い、低速^{びふんまつじょう}で微粉末状^ひ
 10 挽きます。

西尾の抹茶は品質がよいのですが、宇治と比べ
 ブランド力の弱さが課題でした。そこで、1960年代
 以降に茶道用とは別に、洋菓子の加工用抹茶に販路
 拡大を求めます。抹茶アイスクリームを皮切りに食
 15 品加工用に大きく舵を切り、全国や欧米、アジアの
 各国に販路を広げています。

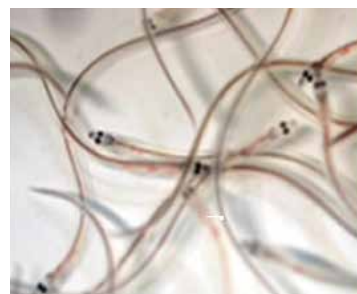
一色町でのうなぎ養殖は100年の歴史があり、
 市町村別生産量でトップクラスを誇ります。ここで
 は矢作川の河川水^{ようまんすいどう}（養鰻水道）を利用し、生息環境
 20 をできるだけ自然に近づけ、ストレスを少なく育て
 ます。加温ビニールハウス内で育成する高密度養殖
 には不可欠な水道です。

しかし、稚魚であるしらすうなぎの減少や中国や
 台湾からの輸入の増加に、生産者は苦悩していま
 25 す。そこで、しらすうなぎから成育し、生育条件や
 情報などを確実に把握できる安心性（トレーサビリ
 ティー）や、出荷時に品質と薬物の残留度を徹底検
 査する安全性に力を入れています。多くの手間ひま
 かけたうなぎは皮の柔らかい、身に良質な脂がのっ
 30 ったうなぎになり、全国に出荷されます。また、減少
 する資源保護のため、親うなぎの放流事業にも取り
 組む努力をしています。

※「西尾の抹茶」「一色産うなぎ」は特許庁の地域ブランドです。



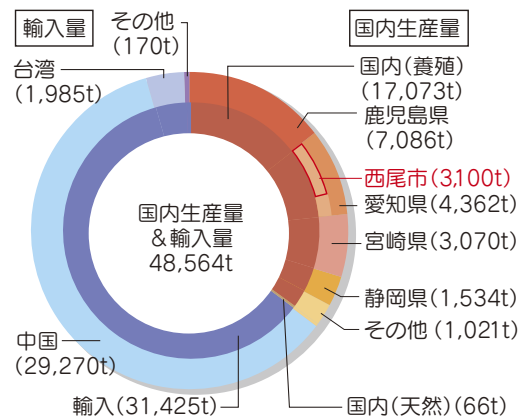
① 全国てん茶生産量グラフ
 全国茶生産団体連合会
 「種類別の主な茶産地」2018による



① しらすうなぎ



① うなぎの出荷作業（一色町対米）
 土用の丑の日に合わせた出荷の様子。



① うなぎの国内生産量と輸入量
 2019年 日本養鰻漁業協同組合連合会
 統計資料による

西尾市の地場産業の分布



地域の条件を 生かした 地場産業

西尾市では明治時代から昭和時代初期にかけて、^{ふなぼうせき}船紡績（ガラ
 紡）や^{いもの}鋳物、^{じばさんぎょう}えびせんべい、漁網などの地場産業が発達しました。
 一色では特許庁の地域ブランド「三河一色えびせんべい」を生
 産しています。これは明治時代中ごろに始まり 100 年の歴史が

あります。当時、三河湾で魚や貝に混じってアカシエビと呼ばれる体長数センチの小エ
 ビが獲れました。しかし、アカシエビの国内需要は伸びず、乾燥させて中国に輸出され
 ていました。中国ではこれをえびせんべいとして加工し、高級品として日本へ輸出して
 いました。そこで、ちくわ、かまぼこを製造していた「かまぼこ文吉」は国産えびせん
 べいの製造を決意します。^{しこうさくご}試行錯誤の末、国産えびせんべいの製造に成功し、ピーク時
 は 100 以上の業者が製造していました。現在は 34 の業者が伝統の味を受け継いでいま
 す。製法は伝統的な手焼きと大量生産の機械焼きがあり、生産量の約 7 割が機械焼きで
 す。

福地は日本で初めて綿が伝えられた地と言われます。温暖な気候や水はけのよい土地
 を生かして古くから綿織物業が発達し、「^{みかわもめん}三河木綿」の名で知られるようになりました。

1 現在は自動車シートなどに使われる産業用資材の綿織物が主力になっています。

幡豆での漁網生産は三河湾に面した伝統的な産業です。この地域は昔から漁業中心の生活が営まれていました。漁網生産は戦前からの歴史をもち、近年は農業用、建築用、スポーツ用など多様な網を生産しています。

5 平坂は江戸時代より平坂港とともに鋳物産業でも知られていました。矢作川が運んでくる砂を利用できたことや、鋳物の原料や製品の輸送に都合がよかったことが理由としてあげられます。

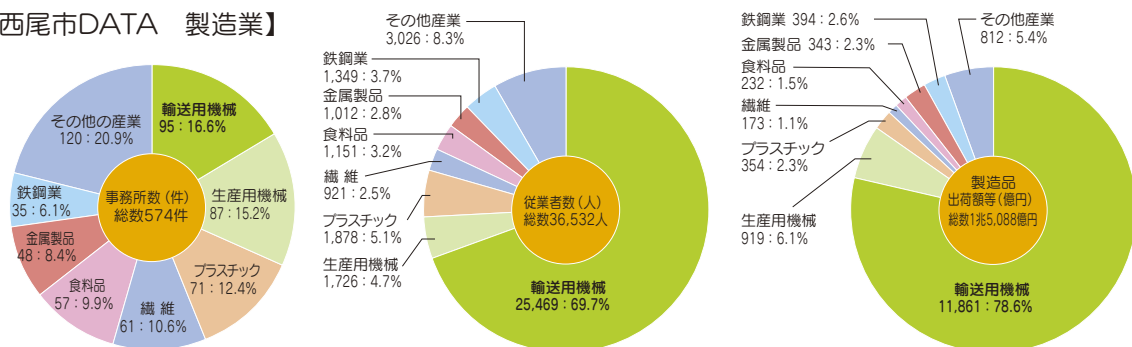
自動車産業を中心とする近代産業

西尾市は、自動車関連工場が集まっていることや、中部国際空港セントレア、三河港（豊橋市・田原市）、名古屋市まで車で約1時間という地理的な条件もあり、県内有数のものづくりの集積地になっています。

1960年代から企業誘致が進み、南中根町・下羽角町・小島町・寺津町・善明町・吉良町瀬戸・吉良町友国などに自動車部品関連の大工場が建てられ、近代産業がめざましく発展しました。近年は西浅井町・志籠谷町・岡島町・上矢田町に新しい企業が集まっています。

平成29年工業統計調査によると、市内の輸送用機械の事業所数は約17%の95か所にすぎませんが、従業員数は約70%の約25,500名、製造品出荷額等では約79%の1兆1,900億円をしめます。製造品出荷額等で全国一位の愛知県にあって、西尾市は県内54市町村中第7位、うち輸送用機械については第5位です。自動車産業以外にも生産用機械・プラスチック・繊維・食料品・金属製品・鉄鋼業など幅広い産業が集まっています。

【西尾市DATA 製造業】



(資料:経済産業省 平成29年工業統計調査)※従業者4人以上の事業所

順位	都道府県	出荷額等(億円)	割合
第1位	愛知県	44兆9,090	14.9%
第2位	神奈川県	16兆2,882	5.4%
第3位	静岡県	16兆1,322	5.3%
第4位	大阪府	15兆8,197	5.2%
第5位	兵庫県	15兆1,054	5.0%

順位	市町村	出荷額等(億円)	割合
第1位	豊田市	13兆3,926	53.1%
第2位	田原市	1兆7,044	6.8%
第3位	安城市	1兆2,525	5.0%
第4位	岡崎市	1兆2,180	4.8%
第5位	西尾市	1兆1,861	4.7%

(資料:経済産業省 平成29年工業統計調査)※従業者4人以上の事業所

④西尾市産業部商工振興課「2019版 企業立地ガイド」による

魅力ある西尾の観光

西尾市にはさまざまな観光スポットがあります。西尾城跡に造られた歴史公園、吉良温泉やワイキキビーチ、芝生広場が広がる愛知こどもの国、三河湾国定公園の三ヶ根山や佐久島があげられます。

また、伝統的な祭りが多く伝えられています。夏の西尾祇園祭、米津の川祭り、貝吹のかぎ万灯、一色の大提灯、冬には福地のてんてこ祭り、鳥羽の火祭りが有名です。



